

地域づくり県土警察常任委員会資料

(令和4年6月1日)

[件 名]

- アートピアとっとり行動指針の中間評価について
【文化政策課】・・・ 2ページ
- 第24回デフリンピック卓球競技に出場した井藤博和選手の結果について
【スポーツ課】・・・ 4ページ
- 中山間地域等サポートチームの設置及びキックオフ会議の開催結果について
【中山間地域政策課】・・・ 5ページ
- JRローカル線問題に対する国土交通省などへの働きかけについて
【地域交通政策課】・・・ 6ページ
- コロナ後を見据えた公共交通利用促進の取組について
【地域交通政策課】・・・ 7ページ
- とっとり弥生の王国 青谷弥生人そっくりさんグランプリの結果について
【とっとり弥生の王国推進課】・・・ 9ページ

地域づくり推進部

アートピアとっとり行動指針の中間評価について

令和4年6月1日
文化政策課

県の文化芸術の取組の方向性を示す「アートピアとっとり行動指針」（平成31年3月策定、対象期間：令和元年度～5年度）に沿って実施している文化施策等の達成状況等について、期間の中間年に評価しましたので概要を報告します。

※アートピアとっとり行動指針は文化芸術基本法第7条の2で策定が努力義務とされている、「地方の実情に即した文化芸術の推進に関する計画」として位置づけています。

1 中間評価の位置づけ

アートピアとっとり行動指針（以下「行動指針」という。）には、本行動指針で設定した数値目標について、鳥取県文化芸術振興審議会（以下「審議会」という。）において、達成状況を点検・評価することを定めている。

2 中間評価の実施方法

審議会において、2つの事項について審議いただいた。

（1）数値目標の達成度評価

数値目標に掲げる4項目に係る令和3年度の状況（県政参画電子アンケート結果による。）

- ①過去1年間に文化芸術を鑑賞したことがある。
- ②過去1年間に、文化芸術に関わる活動をしたことがある。
- ③鳥取県の文化芸術活動について、鑑賞・参加したことがある。
- ④文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会など、鳥取県の文化的な環境に満足している。

（2）施策の方向性の取組評価

行動指針の7つの施策の方向性について、令和元年度、2年度の取組状況、目標を達成するために今後必要と思われることなど

<審議に当たっての基礎資料>

- ・行動指針に係る各事業の事業実施者評価（事業実績及び成果、自己評価、評価理由、評価を踏まえた課題） ※県の文化芸術関係事業（10課・65事業）
- ・県政参画電子アンケート結果 ※施策の方向性に関する7項目

3 評価結果等

（1）数値目標の達成状況

文化芸術活動・鑑賞の有無に関する3つの項目が、策定時より割合が下回ったが、本県の文化的な環境に対する満足度は微増（35.9%→36.8%）した。

委員からは、鑑賞や活動の有無については、「コロナ禍の影響が大きいと思われ、やむを得ない結果のため評価が難しい」という意見が多かった。

（2）今後の対応

広報活動の強化、人材の育成、県立美術館開館に向けた機運の醸成など、推進が不十分であることが浮き彫りとなった部分について、今後、県各課、関係団体及び市町村と連携し、重点的に取り組む。

（3）ホームページへの掲載

文化政策課ページ <https://www.pref.tottori.lg.jp/303558.htm>

アートピアとっとり行動指針の中間評価（概要版）

- 「県内あらゆる場所でアートが花開く、創造性と活力に満ちた鳥取県（アートピアとっとり）」を目指すため、県の文化芸術の取組の方向性を示す「アートピアとっとり行動指針」（以下「行動指針」という。）を平成31年3月に策定。（計画期間は令和5年度末まで）※「地方の実情に即した文化芸術の推進に関する計画（地方文化芸術推進基本計画）」と位置づけている
- 行動指針には、「数値目標」について、「その達成に向けて関係者との連携協力を進めるとともに、『鳥取県文化芸術振興審議会』において、達成状況を点検・評価する」ことを定めている。中間年となる令和3年度に鳥取県文化芸術振興審議会において評価・審議をいただいた。

I. 基本的事項

1. 行動指針の目指す姿

県内のあらゆる場所でアートが花開く創造性と活力に満ちた鳥取県（アートピアとっとり）

※アートピア：

アート（芸術）とユートピア（理想社会）を合わせた造語

2. 基本方針及び施策の方向性

	基本方針	施策の方向性
I	とっとりで「アート」に親しむ～環境づくり～	(1)だれもがアートに親しむことができる機会の充実と環境整備
		(2)アートの拠点である文化施設の充実と新たな拠点づくり
II	とっとりの「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～	(1)子どものアート鑑賞・体験機会の充実
		(2)アートを支える様々な人材の育成
III	とっとりの「アート」で元気に～地域づくり～	(1)アーティスト等と共に創る地域のアート活動の推進
		(2)地域の「宝」を活かした活力ある地域づくり
		(3)美術館整備に向けた体制づくり

3. 中間評価の方法

鳥取県文化芸術振興審議会において、次の2点をについて、評価、審議をいただいた。

(1) 数値目標の達成度評価について

行動指針策定時に設定した各数値目標について、県政参画電子アンケート結果により、目標の達成度について評価・審議いただいた。

(2) 施策の方向性の取組評価について

行動指針の7つの施策の方向性について、令和元年度、2年度の取組状況、目標の達成状況及び指針の目標を達成するために今後必要と思われること等について評価・審議いただいた。

II. 数値目標の達成度評価

行動方針策定時と同内容の県政参画電子アンケートを実施した。

- ・実施対象 県政参画電子アンケート会員 676名
- ・回答 457名（回答率：67.6%）

<数値結果の比較>

区分	項目	鳥取県			国調査
		策定時 H30 (2018)	中間 R3 (2021)	目標 R6 (2024)	R3 (2021)
1	「過去1年間に、文化芸術を直接鑑賞したことがある」とする割合	80.3%	61.1%	85%	41.8%
2	「過去1年間に、文化芸術に関わる活動をしたことがある」とする割合	38.0%	19.0%	45%	14.2%
3	「鳥取県の文化芸術活動について、鑑賞・参加したことがある」とする割合	46.4%	37.6%	50%	—
4	「文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会など、鳥取県の文化的な環境に満足している」とする割合	35.9%	36.8%	40%	36.5%
5	文化芸術に関するボランティア数（スポーツ・文化・芸術・学術に関係したボランティア活動行動者率）	4.3% (2016)	— ※注	5%	— ※注

※注：国の社会生活基本調査（令和3年度）が未公表のため評価対象とせず。

※1、2、4に係る国調査は、文化庁「文化に関する世論調査」

<審議会による主な評価等>

- ・数値目標1～3の項目について、割合が減少しているのは、いずれもコロナ禍の影響が大きいと思われる、やむを得ない結果のため評価が難しい。
- ・コロナ禍においても新たな創意工夫をお願いしたい。

III. 施策の方向性の取組評価

<審議会の評価等>

施策の方向性	審議会による主な評価・意見
アートの親しむ機会の充実と環境整備	・コロナ禍で制約の多い中、オンラインの活用など創意工夫し積極的に取組がなされ、概ね順調である。自己評価及び県民の評価も肯定的である。
アートの拠点である文化施設の充実	・各種情報の集約・発信や文化芸術活動者の支援（情報提供、相談受付等）、活動者のネットワークづくりなど具体の事業がなく取組が不十分。
子どものアート鑑賞・体験機会の充実	多岐にわたり子ども達がアートに触れる機会が増加、ジュニア県展の出品数が増えており、概ね順調である。
アートを支える人材の育成	伝統文化や伝統産業の分野の後継者育成は喫緊の課題であるが、コロナ禍とはいえ、成果がでているとは言い難い。
地域のアート活動の推進	県民の評価が他の項目に比べ否定的な割合が高いが、事業実績等成果をみると良いものが多い。取組をいかに県民に周知するかが課題である。
地域の「宝」を活かした活力ある地域づくり	県民の評価も肯定的な回答の割合が高く、コロナ禍にも関わらず概ね良い結果である。
美術館整備に向けた体制づくり	県・市の共同企画展、デジタルアーカイブ整備検討など、事業が着実に展開されているが、新しい美術館の姿がみえない。

IV 総括（今後の対応）

○新型コロナの影響もあり、数値目標にかかる県民アンケート結果が策定時よりも下がるなど、数値目標達成度の進捗は遅れている。一方で、コロナ禍であっても可能な工夫を行い、アートピアとっとり実現に向けた取組を概ね推進することができた。

○中間評価で得られた審議会・意見や別途把握した市町村意見を踏まえ、各文化芸術関係事業を進めるとともに、広報活動の強化、人材の育成、県立美術館閉館に向けた機運の醸成など、進捗が不十分であることが浮き彫りとなった部分について、今後、県各課、関係団体及び市町村と連携し、重点的に取り組む。

第24回デフリンピック卓球競技に出場した井藤博和選手の結果について

令和4年6月1日
スポーツ課

日吉津村出身の井藤博和選手が、ブラジルで開催されたデフリンピック卓球競技に男子チームの主将として出場し、団体で21年ぶりに銅メダル、混合ダブルスではベスト8となりました。

【井藤博和選手の戦績】

- ▶ 男子団体 銅メダル
 - ▶ 混合ダブルス 井藤・川崎組 8位入賞
※川崎 瑞恵選手は SMBC 日興証券（株）所属
 - ▶ 男子ダブルス 井藤・川口組 ベスト16
※川口 功人選手はトヨタ自動車（株）所属
 - ▶ 男子シングルス 予選リーグ敗退
- ※銅メダル獲得は、鳥取県デフリンピック特別顕彰の対象。

【井藤博和選手プロフィール】

所属団体：社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会（千葉県浦安市在住）

生年月日：1985年8月15日（36歳）

出身地：西伯郡日吉津村

出身校：米子市立箕蚊屋中学校 ※補聴器を使いながら通学

鳥取県立米子東高等学校 ※卓球部に所属

山口大学（理学部数理科学科）

大阪市立大学大学院

主な戦績：箕蚊屋中学校で卓球を始め、高校時代は学校対抗で2度中国大会に出場。大学・大学院では競技をせず、就職活動中に卓球を再開。

2015年アジア太平洋ろう者競技大会男子団体 銅メダル

2017年度 全国ろうあ者選手権 男子シングルス優勝

2018年度 //

2019年9月 第53回全国ろうあ者体育大会（鳥取・島根大会）3位 など

【第24回デフリンピック】

大会名：第24回夏季デフリンピック競技大会（ブラジル）

主催 国際ろう者スポーツ委員会

期間：2022年5月1日（日）～15日（日）

会場：ブラジル カシアス・ド・スル市

（リオグランデ・ド・スル州）

実施競技：陸上競技、バドミントン、水泳、卓球、
ゴルフ 他（21競技）

日本選手団：選手スタッフ149名（10競技）



（参考）

2022年9月・10月に中国杭州で開催が予定されていたアジア大会及びアジアパラ大会は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、延期となりました。

中山間地域等サポートチームの設置及びキックオフ会議の開催結果について

令和4年6月1日
中山間地域政策課

地域課題の解決に向けた地域づくり活動をこれまで以上にきめ細かく総合的に支援していくため、新たに、東部・中部・西部・日野の地区ごとに、関係機関による「中山間地域等サポートチーム（以下「サポートチーム」）」を設置し、その合同のキックオフ会議を下記のとおり開催しました。

記

1 開催日時

5月20日（金）10時から11時15分

2 場所

第二庁舎第28会議室（各参加者をリモートで繋ぐオンライン方式）

3 出席機関

- ・県（各中山間地域振興チーム、日野振興局、中山間地域政策課、県民参画協働課）
- ・関係市町担当課
- ・とっとり県民活動活性化センター

4 概要

各サポートチームの今年度の取組等について、情報共有を行った。

（サポートの一例）

地区	サポート対象	サポート内容
東部	鳥取市逢坂地区	小さな拠点の形成に向けて、担い手の雇用・育成に係る助成や組織体制整備に向けた事例紹介、旧小学校利活用に係る事例紹介や視察支援等のサポートを実施
中部	湯梨浜町泊地区	新たに「こども食堂」の運営に取り組むNPO法人に対し、相談窓口や助成金紹介等のサポートを実施
西部	大山町大山地区	コミュニティカー・シェアリングや診療所サロンの運営等に対し、他地域の取組や課題の共有、外部有識者からの助言等によるサポートを実施
日野	日野町菅福地区	小さな拠点づくりの取組に対し、地域が行うシンポジウムの開催支援や住民交流のサポート等を実施

5 今後のスケジュール

各地区において各サポートチームが継続的な支援活動を展開し、定期的に各地区合同のサポートチーム会議の開催を予定

9月頃：合同サポートチーム会議（進捗確認等）

2月頃：合同サポートチーム会議（年度振り返り、次年度取組方針等）

6 参考：サポートチーム概要

（1）目的

関係機関によるサポート体制を構築の上、課題整理、情報共有、検討方針の検討等を行うことで、地域の地域づくり活動を総合的に支援し、中山間地域等の課題解決を図る。

（2）構成・設置

- ・中山間地域振興チーム、関係市町村、県民活動活性化センター、県民参画協働課、中山間地域政策課（※案件に応じて、適宜、NPO、先進事例実践者等も参加）
- ・東部、中部、西部及び日野地区に設置

（3）事務局

各中山間地域振興チーム（日野振興センターにおいては中山間地域連携担当）

JRローカル線問題に対する国土交通省などへの働きかけについて

令和4年6月1日

地域交通政策課

国土交通省においてローカル鉄道の見直しに関する検討会<※>が開催されていることや、JR西日本が大量輸送という鉄道の特性が発揮しがたい区間として輸送密度2千人未満の線区の収支率が公表されたことなどを受け、鉄道ネットワークの維持・確保に向けて、令和4年5月11日に国土交通省などに対し、要請等を実施しましたので、その概要を報告します。

1 国土交通省への要請等

(1) 全国知事会による要請

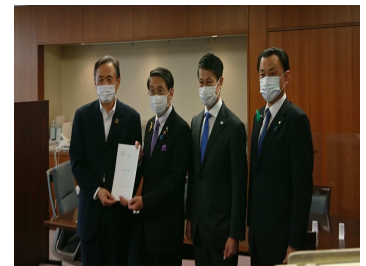
日時 5月11日(水) 15時30分～15時50分

場所 国土交通省

要請者 平井伸治鳥取県知事(会長)、湯崎英彦広島県知事、丸山達也島根県知事

要請先 山田邦博国土交通事務次官

要請事項 地域公共交通の住民生活や地域経済における重要性を踏まえ、交通事業者において、収支や採算性の観点のみで、路線の廃止・減便等の検討が促進されることがないようにすること、鉄道事業者側の事情・判断のみによって廃止等がなされることがないように沿線地域の意向が尊重される仕組みを検討することなど5項目



全国知事会による要請の様子

(2) 有志28道府県知事による提言

日時・場所 (1)に同じ。

提言者 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、静岡、滋賀、京都、兵庫、和歌山、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、大分(28道府県)の知事

出席者 鳥取県知事 平井伸治、広島県知事 湯崎英彦、島根県知事 丸山達也

提言先 斉藤鉄夫国土交通大臣(受領は山田邦博国土交通事務次官)

提言事項 国の交通政策の根幹としての鉄道ネットワークのあり方やJRを含めた鉄道事業者の経営基盤の安定化への支援など4項目

※上記の他、同日、自由民主党鉄道議員連盟にも全国知事会及び有志28道府県知事による要請等を実施。

(令和4年4月26日には「ポストコロナの地方創生実現のための公共交通ネットワークの再構築を目指す議員連盟」にも全国知事会による要請を実施した。)

また、中国地方知事会議(5月18日開催)や近畿ブロック知事会議(5月19日開催)でも、他県と連携して、鉄道ネットワークの維持に係る提言を取りまとめた。

<※> 鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会

鉄道事業者と沿線地域がローカル鉄道の現状について危機意識を共有し、相互に協力・協働して利便性・持続性の高い地域モビリティの構築、また国としてとるべき政策について検討・審議を行うため、令和4年2月に国土交通省に設置された検討会。同年7月に取りまとめを予定、令和5年度概算要求への反映を目標に進められている。これまで計4回開催。

(委員) 竹内健蔵 座長(東京女子大学教授)、板谷和也氏(流通経済大学経済学部教授)、加藤博和氏(名古屋大学大学院環境学研究科教授)、羽藤英二氏(東京大学大学院工学系研究科教授)、宮島香澄氏(日本テレビ放送網(株)報道局解説委員)、森雅志氏(前富山市長)

(オブザーバー) 鉄道事業者、バス事業者、自治体関係者など

2 今後の取組

沿線自治体や商工団体関係者などとともに鉄道をはじめとする公共交通の利用促進や利便性向上に向けた取組を実施するとともに、必要に応じて国への働きかけを行うなど、鉄道ネットワークの維持を目指す。

コロナ後を見据えた公共交通利用促進の取組

令和4年6月1日
地域交通政策課

人口減少やコロナ禍の影響により JR を始めとした鉄道・バス等の地域交通を取り巻く環境が一層厳しいものとなっていることから、将来にわたり公共交通の維持・存続を図っていくため、官民連携組織による県民運動による利用促進や MaaS の展開による公共交通の利便性向上を図るため、次のとおり協議会やセミナーを開催したので報告します。

1 公共交通利用促進県民運動の推進

「みんなが乗りたくなる公共交通利用促進協議会（会長：県中山間・地域交通局長）を開催し、「公共交通乗って ecoh!（行こう）県民運動」を推進していくことを決定した。

(1) 日 時 令和4年5月16日（月） 13時30分～14時

(2) 場 所 エキパル倉吉 多目的ホール

(3) 出席者 国、県、市町村、交通事業者、交通関係団体、
商工関係団体、観光関係団体

(4) 概 要

- ・ JR を始めとした公共交通の利用を促進することを宣言（公共交通乗って ecoh（行こう）！宣言）する企業・団体を募集し、企業・団体ごとに従業員や来訪者・来店者等に公共交通の利用を促進する取り組みを行う。
- ・ 特に交通の結節点である駅前や、必要に応じて重点路線を定め、利用促進活動を行うことで、全県的な県民運動として実施していく。
- ・ 宣言した企業等について、事業者の社会貢献活動として情報発信するとともに成果につなげた企業等に対して、奨励金による支援を行う。

(5) 主な意見

- ・ 取り組みについて、協力できるところは協力していきたい。（岩美町）
- ・ 乗客数を増やしていくのは簡単ではないが、路線の重要性は認識しており、できることは行う。（智頭町）
- ・ GW 期間中にスーパーはくとの利用促進企画を実施したが、思った以上の応募がなかったので広報の工夫は必要。（倉吉市）
- ・ 団体としての利用促進とともに、会員への呼びかけを展開したい。（県商工会連合会）

(6) その他

- ・ 複数の事業者から宣言、問い合わせがあるとともに、麒麟のまち圏域でも県民運動を推進していくことを確認されるなどの反響があり、一層の展開を図る。さらに夏休みを利用した JR 等公共交通利用促進キャンペーンなど追加の取り組みも推進する。



2 鳥取型 MaaS の推進

公共交通の利便性を高めるため、交通の統合による利便性向上に加え、移動の目的である医療・福祉、商業等の他産業との垣根を越えた「共創」により、ニューノーマル時代に対応した暮らしを便利にしていくサービス開発を行う「共創の場」づくりを目的として、官民連携によるコンソーシアムを設立し、同時に記念セミナーを開催した。



(1) 日 時 令和4年5月19日（木） 13時30分～16時

(2) 場 所 県民ふれあい会館 5階講義室 ※オンライン同時開催

(3) 参加者 約100名（分野：行政、交通、商工、観光、福祉、IT、コンサル、メディア、自動車販売、エネルギー、保険、不動産 など）

(4) 設立会議

各分野から52団体・名(5月19日時点)で構成する「鳥取県 MaaS エコシステム共創コンソーシアム(会長:県中山間・地域交通局長)」を設立し、セミナー等での情報共有・議論などを行いながら実証実験等を通じて、自家用車以外の移動の選択肢を提供できるよう本県に適した MaaS(鳥取型 MaaS)を推進していくことなどの方向性を確認した。

<R4 実証実験等の主な取組>

① JR 因美線、若桜鉄道、日本交通若桜線共通パスの実証実験

JR 因美線、若桜鉄道、日本交通若桜線が定額で乗車できる共通チケット「JR・若鉄・日交若桜線共通パス」(1か月定額チケット等を想定)を新たに作り、販売する実証実験を計画中。鳥取-若桜間は、鉄道14往復(若桜鉄道接続便)、バス15往復で計29往復となり、共通で使用できれば実質的な利便性の向上が図られる。

② Y-MaaS(米子市を中心とした西部圏域での共通パス)

R3年度に構築した「わいわいパス」(定額電子チケット)について、ノーマイカー運動の協賛店等と連携したクーポン券の発券機能を付加する等の実証を行う。

③ おいしい MaaS プロジェクト(東部圏域)

R3年度に作成したバスでラーメン屋を訪れると特典が付くラーメンバスマップをデジタル化し、バス乗り放題チケットと飲食店の特典をセットにした電子チケットを販売する。(カレーや焼肉も追加していく予定)

④ 過疎地型 MaaS の取組

- ・鳥取市(気高・鹿野):月定額制乗り放題の AI オンデマンドタクシー
- ・智頭町:モニター付き端末で高齢者が使い易い AI オンデマンドタクシー

(5) セミナー概要

地方の課題となっている「移動サービス供給力の確保」をテーマとしてご講演いただいた。

(講師1)鳥取大学大学院工学研究科 教授 谷本圭志

(鳥取県新たな地域交通体系構築のための研究会座長)

(講師2)(一社)ソーシャルアクション機構 代表理事 北嶋史誉(群馬県高崎市)

デイサービスの送迎業務支援システム「福祉 Mover(福祉×移動)」を全国展開。

(講師3)株式会社電脳交通 代表取締役社長 近藤洋祐(徳島市)

中小タクシー事業者の DX を支援するシステム導入等を全国展開し急成長中のベンチャー企業。

<主な内容>

- ・福祉の送迎業務をタクシー会社が担うなど、業界の垣根を越えて winwin の関係を築き上げていくことで生産性が向上し、移動サービスの供給量が高まる。
- ・タクシー業界も分からないもの(異業種)に対して理解を示していかなければならない。
- ・実証実験をやってみないと分からない。やってみて PDCA を早く回すこと。失敗は美德という文化を作っていくことも必要。

とっとり弥生の王国 青谷弥生人そっくりさんグランプリの結果について

令和4年6月1日

とっとり弥生の王国推進課

令和3年度に実施した「青谷弥生人そっくりさんコンテスト」の入賞者・特別賞受賞者を鳥取県にご招待し、そっくりさん入賞者10名の中からそっくりさんNo.1を決定する「青谷弥生人そっくりさんグランプリ」を開催しました。またコンテスト前後には、「青谷弥生人そっくりさん大集合ツアー」を行い、青谷上寺地遺跡、むきばんだ史跡公園をご案内するとともに、県内観光を満喫していただきました。

1 青谷弥生人そっくりさんグランプリ

- (1) 日 時 令和4年5月28日(土) 14時30分から16時まで
- (2) 会 場 鳥取市青谷町農林漁業者トレーニングセンター
(鳥取市青谷町露谷50)
- (3) 参加者 会場参加 80名 ※YouTubeでの同時配信を実施
- (4) 審査結果
グランプリ 吉田 昌弘(よしだ まさひろ)さん(大阪府)
- (5) 審査

ア 審査員

片田悠仁さん・遙仁さん兄弟(そっくりさん特別賞受賞者)、近本福子さん(そっくりさん特別賞受賞者)、久野浩太郎さん(青谷上寺地遺跡クラブ会長)、宮本栄一さん(似顔絵アーティスト)、大山町マスコットキャラ「むきばんだ」・大下志穂さん(むきばんだ女子考古部)

イ 審査方法

- 審査基準は、見た目のそっくり度を一番の評価ポイントとする。ただし、そっくり度のみで決定しがたい場合は、パフォーマンスの内容も評価に加味することができる(パフォーマンスは「弥生人らしさ」と「青谷弥生人への愛情の深さ」で評価)。
- 審査員、会場参加者、YouTube同時配信視聴者が採点。事前のインターネット投票も可とし、合計点が最多となった方をグランプリに決定した(投票総数670票)。



そっくりさんおよび審査員集合写真



グランプリの吉田さんと平井知事

2 青谷弥生人そっくりさん大集合ツアー

グランプリの後、そっくりさん入賞者・特別賞受賞者を「とっとり弥生の王国」に招待するツアーを28日(土)・29日(日)に開催。青谷上寺地遺跡やむきばんだ史跡公園を訪れたほか、日本遺産の三朝温泉で宿泊し、大山観光をしていただくなど、鳥取県の魅力を感じていただいた。

3 そっくりさんグランプリの反響(5/30 14:30 現在)

- ・青谷上寺朗公式ツイッターでの結果発表に1,994件のいいね、853件のリツイート
- ・毎日新聞のネットニュースでの結果発表が、5/28のYahoo!トップページに掲載 コメント数1,067件
- ・Youtubeでのイベント当日の様子再生回数が、4,046回
- ・5/30朝の民放キー局の情報番組での報道 日本テレビ「スッキリ」、フジテレビ「めざましテレビ」、TBS「THE TIME」



むきばんだ史跡公園で火起こし体験をするそっくりさんたち

4 今後について

史跡公園のオープン1年前イベントなど、今後実施するイベント等にご協力いただく予定。